



虹のかけ橋

第24号 / 平成19年9月



「はやくがっこうにいけますように」「高校に受かりますように」「家族みんなの笑顔が見られますように」

様々な思いを短冊にしたためて、星に願いをかけました。



「遠くへ出かけよう」で今子浦に行きました。

海で泳いだ後、ヤドカリや貝を採ったり、スイカ割りをしたりして楽しみました。

「やくの木と漆の館」で、漆器の絵つけ体験をしました。

みんな初めての体験でしたが、一生懸命がんばって、とてもきれいなお椀ができました。



のびのび広場でテントを張って泊まりました。

蒸し暑かったけど、みんなと一緒にいい思い出を作ることができました。

子どもたちの心に残る体験活動

平成18年度入所者の退所アンケートによると、印象に残った活動として「遠くへ出かけよう」が最も多く(28.8%)、次いで「製作活動」(20.8%)、「スポーツ活動」(19.2%)の順となります。

対人関係に課題を持っている子どもが多いので、人との関係がうまくいった体験活動は「よかった」と感じる傾向にあります。特に最近の傾向としては、「みんなと一緒にしたスポーツが楽しかった」「ボランティアといろいろ話げできた」等の感想が多く、何を選択したかということより、誰とどのようにかかわったかということが、子どもたちには影響が大きいようです。

兵庫県立但馬やまびこの郷

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~yamabiko-bo/>

子どもと寄り添う

～不登校児童生徒とのかかわり方～

但馬やまびこの郷の4泊5日のプログラムは、子どもたちの活動範囲と人間関係を徐々に広げていくように構成されています。その中で子どもたちは、自分で選択し、自分で考えながら活動することで、仲間と一緒に活動することの楽しさを経験しながら、少しずつ自信を回復していきます。その過程において、指導者が、子どもとどうかかわっていくかが、非常に大切になってきます。「子どもと寄り添う」という視点から、当所における子どもたちとのかかわり方を紹介します。

自尊感情を高めるかかわり



不登校の子どもは、一般的に、自己肯定力や自尊感情が低下していると言われています。また、登校していないことで、すべてにわたって自信がもてないという特徴があります。自らが変わり、今の状況を変えようとするためには、成就感や満足感、成功感を体感する中で自分に対しての自信をつけることが必要です。



中学3年生のA君は、日頃、ゲームやテレビを中心とした生活のため、体を動かすことが少なく、やや肥満傾向にあります。4日目の活動「遠くへ出かけよう」で、鉢伏山登山に臨みました。しばらく歩くと大きく息をし始め、少しずつみんなから遅れ始めました。「大丈夫？」と声を掛けると、「休憩させて欲しい」と言うので、休憩を取りました。その後も何度か休みながら登山を続けましたが、4分の3ほど上がったところで、A君は座ったまま動かなくなり、「もうあかん、帰る」と言い出しました。「もうあかんか？」と聞くと、「もう限界や」と言います。しばらく沈黙の後、「どうする？」と声を掛けると、少し時間を置いた後、自分自身に気合いを入れるかのように大きな声を出し、再び歩き始め、頂上まで行くことができました。

A君は、お別れ会で、「しんどかったけど、登山が一番心に残った」と感想を述べました。苦しいこと、つらいことから逃げずに最後までやり遂げたこと、そして、それを自分の意思で決めたことは、彼にとってたいへん貴重な体験だったと思われる。

製作体験、スポーツ体験等で例を挙げると、模型飛行機を作ったとき、結果として飛んだ子どもと飛ばなかった子どもの両方が必ずあります。私たちスタッフは、「飛んだ・飛ばない」で評価はしないことにしています。作るプロセスで集中していたこと、カッターナイフの使い方が上手であったことなどを評価します。スポーツの場合も、当然上手下手があります。普通に評価していれば下手な子どもについてはなかなか評価しにくいことになるのですが、汗をいっぱいかいたこと、運動中は物も言わずにとっても集中できたことなどに焦点を当てて評価するようにしています。

このような積み重ねが少しずつ自信につながっていきます。今まで気づけなかった自分に気づくことが大切であり、小さな一歩が大きな成長につながっていくのではないのでしょうか。

自主性を育てるかかわり



4泊5日の宿泊体験活動の3日目は「自分で選ぶ活動」です。午前中は主に製作・文化・自然体験・社会体験活動、午後はスポーツ活動です。数

十種類ある選択肢の中から自分の好きなものを選んで活動します。

選択活動に限らず、夜の自由時間である「やまびこタイム」の活動も、なるべく子どもたちで考えるようにさせています。当所で4泊5日間、子どもたちと一緒に活動してくれた学生ボランティアが、報告書の中で次のように述べています。

「私の心に余裕がなくて不安だと、どうしても子どもたちに対して口数が増えてしまうし、いろいろと私がやってしまう。しかし、それは本当は子どもたちへの支援になっていない。大きく構えて子どもたちが少々迷ったり、探りながら進んでいても見守って待ってやると、子どもたちは意外と自分たちでいい案を思いついたり、何とか工夫をして乗り越えていってくれた。そこで、たくさん褒めてやり、できた喜びを分かち合うことで私に素敵な笑顔をたくさん見せてくれた。子どもたちの持つ芽生えるかもしれない芽を先回りして摘んでしまっはいけない。子どもたちの芽生えを見守り、そっと裏からサポートするような姿勢を大切にしたい」

子どもたちの自主性を育てるには、「信じ、待ち、見守る」ことが必要だということが改めてわかります。

安心感を与えるかかわり



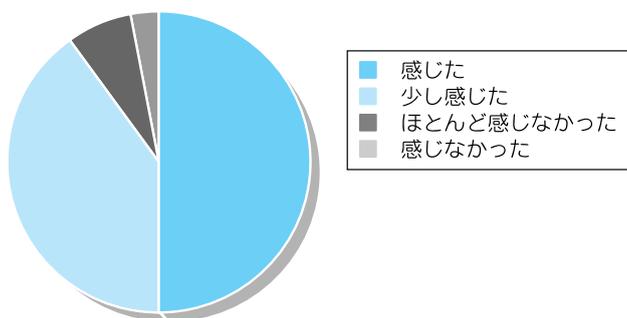
不登校の子どもの中には、どこにも自分の居場所がないと言う子ども、クラスや部活、友達等の集団で自分の存在を認めてもらった経験の少ない子ども、自分を注視してもらった経験の少ない子どもが多いと思います。また、周囲の動向に過敏に反応する感受性の強い子どもも、なかなか安心感を持つことはできないようです。但馬やまびこの郷では、不登校の子どもにとって、その場所で「安心感」という気持ちを持てるようになることが最も重要なことと考えています。

一旦、「あるがまま」を受け入れ、受容し、共感し、一人一人の存在を認める対応をしています。そして、その後のかかわりを通して、スタッフ等との信頼関係を構築することを心がけています。

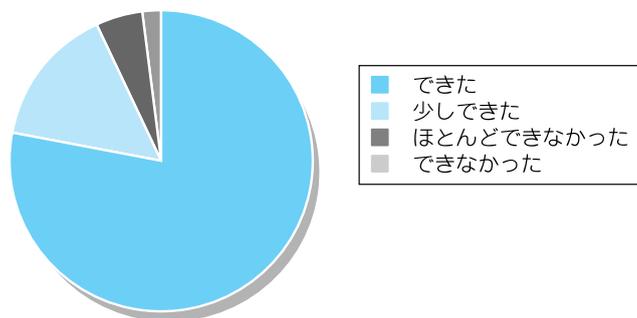
～子どもたちのアンケートより～

下のグラフは、今年度8月末までに当所に入所した子どもたちが、退所アンケートに答えた結果です。

●自信を持って行動することができましたか？



●みんなと活動することが楽しいと感じましたか？



ある程度の負荷と実現可能な範囲の具体的な目標を持ち、仲間と共に身体を動かす活動の中で、子どもたちは、連帯感や達成感を味わい、自主・自律の精神を培っていきます。そして、それが子どもたちのエネルギーとなり、新たな一歩を踏み出す勇気につながっていくと考えます。

そうした子どもたちの支援のために大切なことは、子どもたちの今の状態を受け容れ、共に身体を動かし、喜びや悲しみを共に感じ、子どもたちの成長を信じて待つことだと考えます。それこそが、「子どもと寄り添う」ということではないでしょうか。

地域やまびこ教室

当所の体験活動に、より多くの児童生徒及びその保護者が参加できる機会を提供し、再登校に向けた支援を行うとともに、今後の但馬やまびこの郷の利用を促進するため、県下各地で「地域やまびこ教室」を実施しています。

今年度は、県下を8地域に分け、4地域で1泊2日、あとの4地域で、1日だけの活動を実施しました。

当所を利用したことがない児童生徒も、家から近く、短期間なので、気軽に参加できます。



中播磨地区（5 / 30）

参加者からは、「みんなと活動できて楽しかった」「但馬の方にも行ってみたい」という感想が多く聞かれました。

不登校に関する教職員研修

県内の公立小・中学校及び特別支援（盲・聾・養護）学校の教職員を対象に、不登校児童生徒の再登校支援の在り方及び不登校の未然防止や早期支援の在り方についての研修を県下9地域で実施しています。



東播磨地区（8 / 3）

午前中は、大学教授等による講義、午後はグループに分かれての演習を行います。「他校の先生や異校種の先生と意見を交換する機会が得られ、大変参考になった」「チームで支援するための組織作りが必要だと思った」といった感想を多数いただいています。

参加申込については、各学校に送っております開催要項をご覧頂き、不明な点については当所にお電話でお問い合わせください。初任者・10年経験者の校外研修としても参加可能です。一人でも多くの先生方の参加をお待ちしております。

参加申込については、各学校に送っております開催要項をご覧頂き、不明な点については当所にお電話でお問い合わせください。初任者・10年経験者の校外研修としても参加可能です。一人でも多くの先生方の参加をお待ちしております。

不登校に関する校内研修について

但馬やまびこの郷では、本年度より各学校単位で行われる校内研修への当所職員の派遣を受け付けています。不登校に関する校内研修会や事例検討会をされる際に、ご要望があれば、ご連絡ください。

なお、日程・内容等により、派遣できない場合もありますので、まずは、お電話でお問い合わせください。

児童生徒向けDVDについて

このたび、当所の施設や活動内容を紹介したDVDを作成し、各学校に配付いたしました。

不登校の児童生徒及びその保護者に見ていただき、当所への入所の際の参考にしていただければと思います。ぜひ、ご活用ください。

